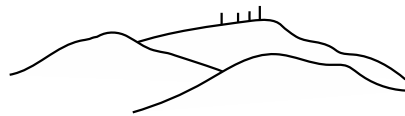


Youth Manna



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/5/9(月)

エステル 2 章

15 節「こうしてエステルは、彼女を見るすべての者から好意を受けていた。」

王妃ワシュティの代わりに、美しいエステルが選ばれた。しかし、彼女はユダヤ人という身分を隠さなければならなかったり、尊厳もなく王の思うがままに身分を扱われ、そこに神様の価値観などなかった。そんな中でもエステルは、王を含めたたくさんの人から好意を受けていた。

みんなから好かれる人は、どのような存在だろう？ただ単に、優しい、いい人、素敵な人…ただけだろうか？エステルはそれだけではなく、神様の愛をたくさん流していたから人々に愛される存在になったと考えられるね。私たちもイエス様の愛を知り、流すものとして、世に仕えていこう！

2022/5/10(火)

エステル 3 章

6 節を何度か読んでみよう！ハマンはモルデカイを嫌った。それはモルデカイが神様への信仰ゆえにハマンにひれ伏そうとしなかったからだ。そこでハマンはモルデカイを殺そうとし、さらにはユダヤ人全員を根絶やしにしようとしたのだ。罪とはこのようなものなのだ。罪とは恐ろしいことをしてしまう滅びの力がある。

でもここで大切なのが、神様はこのような危機の時を通して、御心を進めようとしておられること。神様はどんな時にも神様なんだから、どんな時でも神様を信じて、歩いていこう！

2022/5/11(水)

エステル 4 章

ユダヤ人大量虐殺の知らせは、帝国中のユダヤ人に嘆きをもたらし、モルデカイも泣きわめいた。モルデカイはエステルにこの次第を告げた。そしてエステルに、自分がユダヤ人だと王に明かして憐れみを求めるよう言った。王のもとに行くのは決死の覚悟だったが、ついにエステルは決断し、自分のために祈るよう求めた。

神は、わたしたちに何をしよう求めておられるだろうか。神がこれをせよと命じられたときに、信仰によってそれをなすことができるよう祈ろう！

2022/5/12(木)

エステル 5 章

エステルは 3 日間の断食ののち、3v 「王室の正面にある王宮の奥の中庭に立った。王は王室の入り口の正面にある王宮の玉座に座っていた。」

ここだけを読むとよく分からないが、当時、王の許可なく、王の前に出ることはできなく、エステルは法を犯すという危険な行為に出た。妻だから当たり前を感じるが当時は違った。しかし、王はエステルの望みをなんでも聞くと云うくらい気に入った。

エステルの行動はただ自分から出たものではなく、神様に従うべく起こした行動である。

「耳に心地いい」「自分好み」の話ばかりきいていないだろうか？(第二テモテ 4:3)

2022/5/13(金)

エステル 6 章

▶ エステルの開いた 1 回目の宴会が終わった夜、不思議なことが続けて起こった。何故か王は眠れなくて、何故か 5 年前の事件を見つけた。何故かモルデカイは褒美を受け取っていなかった。何故かハマンが絶妙なタイミングでやってきた…

▶ 神様が何かしたという記述はない。けれど、神のなさることはすべて時にかなって美しく、人は神が行うみわざを見極めることができないものだ(伝道者 3:11)。

▶ ヨブは次のように告白した。あなたには、すべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、私は知りました。ヨブ記 42:2 そんな主に信頼して祈りをささげよう。

2022/5/14(土)

エステル 7 章

今日のところでは、いよいよハマンの悪事が明らかにされる箇所だね。ユダヤ人を皆殺しにしようとしていたハマンだけれど、それは今回エステルが王様に言うまで表にはでていなかった。それはハマンが都合がいいように王様に隠してやり過ごしていたからだね。私たちの周りでも、罪や悪いことが隠されてそのままになっちゃうこと、あるんじゃないかな？

だけど、神様は公正な方で、罪をいつまでも野放しにはしない。神様の時に全ては明らかにされるし、正しい裁きがなされるんだ。だから、その神様に正しい恐れと喜びをもって、従う歩みをしていこう！理不尽なこと、罪の現実を見た時も、諦めず神様の解決を求めて祈り続けよう！

2022/5/15(日)

エステル 8 章

ユダヤ人にとって、いのちが与えられる、良い知らせである新しい法令は、それぞれの言葉に訳されて国の隅々に伝わっていきました。

死を覚悟していたユダヤ人たちが、その良い知らせを聞いた時に、人々は喜びに溢れました。知らせが届いた人々にいのちが与えられました。

私たちにも、いのちであるイエス様の福音が伝えられています。その良い知らせは、他の人々に伝わっているのでしょうか。

私たちにとっての光と喜びであるイエス様の福音を、まだ知らせが届いていない人のところへ届けるために、自分にできることはなんだろうか。祈り、考えてみよう。